

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般レストラン（経営者）	・学生のキャンプ、合宿等が増える見込みがあり、予約状況をみても、当店の売上は今後上昇する。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・客の様子をみると、景気は底をついた感がある。これから経済対策等により、客の動きは良くなる。
		スーパー（店長）	・買上点数、売上共に前年並みで推移するようになっている。ただ、衣料品の動きが悪く、今後もその状況は続く。
		コンビニ（エリア担当）	・例年最も売上が好調に推移する時期であり、今年も期待できる。天候が良いと売上も伸びる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・タスポ効果が一巡して2、3か月経過するが、来客数は回復傾向にある。また、気象庁によると9月は残暑になると予報されており、コンビニへの来客数の増加が期待される。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・客の様子をみると、コーヒーの需要が増え、中元の商品も少しずつ予約が入っている。新規客も若干増えており、売上は前年比110%程度になる。
		高級レストラン（支配人）	・景気の低迷は底打ち感があり、これから客の動きは良くなる。対策をしっかりと考えれば、2、3か月先の売上は向上すると見込まれる。
		観光型ホテル（営業担当）	・夏季に向けて自社企画や地域内で開催されるイベント、九州域内と全国規模の宿泊を伴う大会等が予定されており、客の動きは良くなる。
		都市型ホテル（副支配人）	・7月以降は例年通りの大会に加え、新規のイベントがある。8月以降の団体の予約も入り始めており、良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・夏休みは国内、海外共に近場の旅行予約が増えている。9月は連休があるため、予約は前年の倍に増えている。
		旅行代理店（業務担当）	・今が景気の底であり、これから新型インフルエンザの自粛ムードは払しょくされ、やや良くなる。法人需要も今より悪くなることはない。
		通信会社（総務担当）	・当社への加入状況はすべて事業計画通りとは言えないが、以前より良くなっており、今後に期待できる。工夫次第ではビジネスチャンスがあり、景気が良くなれば事業計画を達成できる。
		テーマパーク（職員）	・これから個人旅行の需要が最も高い時期を迎える。例年、同様のイベントや戦略を仕掛けるが、各種イベントと高速道路料金引下げの効果が期待できる。
ゴルフ場（支配人）	・客の様子をみると、ペースは緩やかではあるが、消費志向は上向いている。		
変わらない	商店街（代表者）	・定額給付金の効果もなく、良くなる要因が見当たらない。今後も悪いまま推移する。	
	商店街（代表者）	・近隣のスーパーやコンビニ、デパートなどの夏期商戦がかなり激しくなり、商店街の売上向上は見込めない。プレミアム付き商品券を当商店街でも発行しているが、あまり効果はない。	
	商店街（代表者）	・今まで1,050円で販売していた物を990円に値下げすると、動きが非常に活発になっている。収益は減るが、客の購買意欲は向上している。	
	商店街（代表者）	・ボーナスや給料が減っており、個人消費がなかなか改善しないため、今より良くなることはない。	
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・客の様子を見る限りでは、良くなる要素がなく、このまま悪い状況が続く。	
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・景気は上向きになっているという報道を耳にするが、小売店の売上増加につながる明るい材料はない。景気はすぐには回復しない。	
	百貨店（売場主任）	・客の購買意欲が向上する要素がない。	
	百貨店（総務担当）	・政府の景気対策は特定の商品のみ恩恵を受けている状況であり、大多数の一般テナントへの効果は期待できない。	
	百貨店（営業担当）	・例年であればクリアランスセールや各企業の賞与等、売上が増加する時期であるが、今年は企業の賞与が減少していることも踏まえ、消費の回復は見込めない。	
	百貨店（営業担当）	・客はボーナスの減額や雇用不安があるため、消費者の収入に比例している小売業の売上は依然厳しい。消費を活性化するような対策をしてきたが、将来に対する不安等が払しょくされない限り、右肩上がりには良くならない。現状を維持し、少しずつ対策の効果が出るようになれば、今後期待できる。	

百貨店（売場担当）	・来客数は3か月間ほぼ同程度で推移しており、現状をみると、良くも悪くもなく推移する。食品の動きにも変化がなく、他店も同じ状況である。
百貨店（業務担当）	・ボーナスが増えるという客がほとんどおらず、支払を先に延ばすことや分割を敬遠する客が多い。消費への慎重さは変わらず、これから夏物の処分期に入るが、小売業は厳しさが続く。
百貨店（営業企画担当）	・政府の景気対策は消費者全体の消費意欲の向上にはつながらなかった。衆議院選挙を控え、景気の好転は望めない状況である。
百貨店（企画）	・最悪の事態からは脱却したとの見方があるが、小売業は最終消費部分であるため、雇用環境や賃金の下げ止まり等、個人にかかわる収入が増加しない限り、良くなることはない。企業として様々な施策を講じる等、経営改善に取り組んでいるが、厳しい状況からの脱却にはしばらく時間が掛かる。
スーパー（店長）	・定額給付金の給付が売上に反映されていない。ガソリンの高騰が懸念され、ボーナスも期待できず、依然として厳しい状況が続く。
スーパー（総務担当）	・父の日等の催事において、1品単価の低下傾向があり、食品の売上も前年を下回っている状況が続いている。今後も買い控えの状況が続く。
スーパー（企画担当）	・製造業関連の景気は回復傾向にあるものの、末端の消費者の景気回復にはほど遠く、食料品や雑貨類の販売は苦戦が続く。
スーパー（経理担当）	・景気対策の効果が出るか否かにもよるが、先行きは不透明で予測がつかない。
コンビニ（エリア担当・店長）	・若干回復傾向にあると思われたが、客単価の減少傾向をみると、今後もすぐには回復しない。
衣料品専門店（経営者）	・客の様子から今が底であるが、良くなる要素が見当たらず不安な状況が続く。
衣料品専門店（店員）	・客の買い方を見ていると、見栄を張る客が減っており、余裕が感じられない。
衣料品専門店（店員）	・売上は非常に低い水準で推移している。変わらないと判断したが、悪い状態がずっと変わらないまま続いている。7月は大きなセールに入るが、客がセール慣れをしてしまい、3か月後の正価販売品の立ち上げの時期はどういう状況になるのか全く予想がつかない。よほど工夫した商品や売れ筋商品がない限り、全体的に非常に厳しいと予想される。
家電量販店（店員）	・プレミアム付き商品券が発売され、消費は盛り上がると思われたが、残念ながら大きな変動はない。エコポイント等の景気対策はあるが、消費者の財布のひもは依然として固く、動きは今一つである。
家電量販店（店員）	・客の様子をみると、何とか底を打ったような感じである。エコポイント制度が購買意欲を高めると思われたが、出足は思ったほど良くなく、現状維持が続く。
乗用車販売店（従業員）	・客の中にはボーナスの支給がなかったり、半額になった人もおり、厳しい状況が続く。
乗用車販売店（販売担当）	・有効求人倍率が依然として低く、失業率が高い状況のなか、車等の高級耐久消費財への購買意欲の回復には時間が掛かる。
乗用車販売店（管理担当）	・景気対策が行われているが、これ以上、需要を喚起するという材料はなく、消費者が車等の耐久消費財を購入するまでは至らない。
その他専門店〔書籍〕（店長）	・客の購買行動をみると、これ以上は悪くならないくらい悪い状態で推移する。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・今年の梅雨は雨が少ないようであり、例年に比べて休日に家族で外出する傾向が強い。車の洗車の売上も好調であり、前年より売上の増加が期待できる。高速道路料金引下げによる効果も引き続き期待ができ、消費マインド拡大に期待する。
高級レストラン（経営者）	・予約状況を見る限り、落ち着いている状況である。直前になってからの予約状況が良く、来月以降も期待できる。ただし8月の閑散期は例年通りである。
スナック（経営者）	・客の様子をみると、不景気に慣れてきている。しかし、今後の状況を楽観的には考えていない。

その他飲食〔居酒屋〕 (店長)	・ 繁華街の同業店の店主はみんな頭を抱えている。店を始めて30年になるが、今までになく悪い状況が続いており、どうしたらいいのか見当もつかない。ダイレクトメールを出しても反応がなく、従業員やその家族を抱えているのでそう簡単にやめるわけにいかず、借金しながら経営を続けている。
観光型旅館	・ 客の節約志向が顕著であり、余暇産業である宿泊業においては、旅館への宿泊が増える要素が見当たらない。
都市型ホテル(総支配人)	・ 景気の底打ちが見え始め、回復傾向にあると報道されているが、サービス業の回復はまだまだ先になる。
都市型ホテル(スタッフ)	・ 景気に薄日がさし始めたという報道もあるが、地方への波及はまだ先である。
タクシー運転手	・ 客の話では物を我慢して使う傾向が強く、子どもの物等は極力上の子の物を下の子にも使い、買物には出ないという声が多い。
通信会社(企画担当)	・ ボーナス商戦時期となるが、今と変わらない。
通信会社(営業担当)	・ 法人客が携帯電話機器の購入をする頻度が、どんどん遅くなっており、今後もこの状況は好転しない。
通信会社(業務担当)	・ 新商品が追加発売され、メディアへの露出は多くなるものの、話題性と買い得感が少ないため、店頭への来店客は少ない。販売数も伸びず、厳しい販売状況になる。
ゴルフ場(従業員)	・ 客単価を抑えながら営業しており、来客数は少しずつ確保できているが、総体的な売上は変わらない。一方、3か月後の県外客の予約が入りつつあり、少しずつ明るさは出てくる。
美容室(経営者)	・ 美容業界は例年秋口以降、上昇傾向になるが、今年は低迷したまま推移する。
理容室(経営者)	・ 同業他店や客の話を書く限りでは、依然、景気回復は期待できない。
美容室(店長)	・ 客の来店周期が長くなっており、しばらくは変わらない。
設計事務所(所長)	・ 新規の案件資料がほとんどなく、今の良くない状態が続く。
住宅販売会社(従業員)	・ 選挙を控え、通常の経済活動より選挙活動に力が入っていくため、景気の先行きは不透明のまま変わらない。
やや悪くなる	・ 客は選挙により浮き足立ち、なかなか物を買おうとせず、選挙本番になると購買意欲はますます低下する。
商店街(代表者)	・ 商店街のアーケード解体や撤去作業、道路整備が来年2月まで行われる予定であり、来街者が一段と減少している。当エリアでの店頭販売額はこれから数か月間は減少する。
一般小売店〔青果〕 (店長)	・ 青果物に関しては中元やギフト等で動きが良くなるが、9月前後になると暑さもあり、動きがかなり悪くなる。廃棄する青果物も増え、期待できない。
スーパー(店長)	・ 価格競争の激化により、先行きの不安は払しょくされない。ここに来て、高齢化と団塊世代の退職の影響が、売上量、1品単価の面で出始めている。状況によっては急激な景況感の低下も懸念される。店頭の様子を見ても、楽観的な要素は少ない。
スーパー(店長)	・ 夏商戦が始まるが、セール時期が前年より前倒しになる傾向にある。また中元セール催事においても、夏のボーナス削減等の影響で商品単価は前年より低下する。地方の店舗はさらに厳しい状況に変わりはない。
スーパー(店長)	・ 価格競争の激化や賞与を含めた収入減等の影響により、中元、盆用品の販売縮小が懸念される。レジ袋有料化に伴うスーパーマーケットとして必須であった袋のサービスカットは、ついで買い、購入量低下や万引きの増加等のマイナス面もあり、リスクは大きい。
スーパー(総務担当)	・ 夏のボーナス商戦は前年割れで推移する。例年、選挙のある年は消費購買力が落ちるため、今年も例外ではなく、厳しい状況となる。
コンビニ(エリア担当・店長)	・ この先も来客数が増加する要素はなく、客単価もそう変わりない。一部のコンビニで賞味期限が切れる直前の商品を割引して販売する店があるが、客の動向にあまり影響はない。
衣料品専門店(店長)	・ プレミアム付き商品券が発行されているが、当店の回収状況は今一つである。今後も厳しさは変わらない。
乗用車販売店(従業員)	・ 部品の販売金額が上がらず、今後も厳しい状況が続く。
住関連専門店(経営者)	・ 地元大手の家具メーカー及び資材関連業者の倒産があり、好景気時の店舗展開で数十店舗を構えていた仏壇業者も経営難により大口取引先から支援を受けるという話もある。家具業界の先行きは厳しい。

		観光型ホテル（スタッフ）	・今年は大会や学会等が少なく、一般宴席の動きは悪くなる。婚礼においては、近隣に新しい施設が増えたことで、獲得競争がますます激化している。既に予約数は減少しており、厳しい状況が続く。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今後、選挙が行われる可能性が高く、客の動きも鈍くなる。
		タクシー運転手	・夏にかけて暑さが厳しくなるため、例年通り客の動きが悪くなり、今以上に厳しくなる。
		タクシー運転手	・景気は若干良くなっていると言われているが、実際には客単価が下がり、収入が減る業種が多くあるので、今後ますます悪くなる。
		タクシー運転手	・ボーナスが支給されているが、動きはない。客の様子をみると、財布のひもが非常に固い。
		競馬場（職員）	・企業の在庫調整が進み、受注の回復が見込まれるが、それが給与等に反映され、消費が改善されるまでには相当の時間を要する。
	悪くなる	一般小売店〔生花〕（経営者）	・これから2、3か月先は例年通り花の需要が減り、今以上に厳しくなる。
		百貨店（営業担当）	・客の様子をみると、全体的に低価格志向になっている。来客数も増加しないため、売上の上昇も期待できない。
		百貨店（営業担当）	・レジ単価、客単価が月を追うごとに落ちており、今後もこの傾向が続く。
		衣料品専門店（店長）	・客の様子をみる限り、先が読めない。売上が期待できない状態に加え、増税等の不安が広がれば、購買意欲はますます低下する。
		高級レストラン（専務）	・同業他社や異業種等で話を聞くと、売上が上がらない、客足がないという話がほとんどである。金融関係においても良い返事がほとんどない。
		高級レストラン（従業員）	・依然景気は悪く、今月になって周辺の店が2件閉店になっており、今後も厳しい状況が続く。
企業動向関連	良くなる	輸送用機械器具製造業（経営者）	・北米や国内の景気対策の影響が、取引先の生産が増加傾向にあり、今後良くなる。
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・例年、鳥の消費は焼き鳥などを中心にビールの消費に比例するので今年もかなり期待できる。ただ、冷食加工メーカー向けの年末年始の生産が始まり、販売が弱くなっており、少し不安である。
		食料品製造業（経営者）	・季節的に商品が動く時期であり、今年前半が良くなかったため、秋以降は期待ができる。
		繊維工業（営業担当）	・これ以上は悪くはならない。繊維は景気回復の恩恵を受けるのが最も遅い業種なので、良くなるのはもっと先になる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・現在の価格競争のなかで生き残れたら、需要量が増して稼働益が多少出てくる。新規商品が売上に貢献することが予想され、やや良くなる。
		通信業（職員）	・補正予算等により官庁件名の発注が見込めるようになった。
		通信業（経理担当）	・定額給付金やエコポイント、環境対応車の減税等により、消費はさらに拡大するため、良くなる。
		金融業（調査担当）	・企業に対して実施したアンケートによると、今後改善に転じるとの回答が増えている。
		不動産業（従業員）	・商業施設の売上がやや上向き傾向にある。
		経営コンサルタント	・本年度の上半期は大変厳しい状況であったため、今後、少しは改善する。
	変わらない	農林水産業（従業者）	・エサの価格が高騰しているが、まだ鶏肉関係の在庫が多く、状況はなかなかはっきりしない。しばらくはこのまま厳しい状況が続く。
		農林水産業（営業）	・消費者の所得が低下し、食費の割合を下げる傾向にあり、景気が良くなる状況ではない。卸、小売も悪く、商売をやっていくのは難しい。
		食料品製造業（経営者）	・納入先の来客数が大きく落ち込んでおり、客単価も減少傾向にある。消費者の無駄な物は買わないという傾向が見受けられ、客単価の上昇も難しい。納入先の来客数は増加する要素がなく、悪天候や災害、新型インフルエンザ等により減少する可能性は大いにある。
		家具製造業（従業員）	・当社の売上数字上では、首都圏での不況が持ち直している実感がない。景気の悪化は、長崎や熊本、鹿児島、大分など地方に移行しており、これから首都圏で回復してきたとしても、地方都市の回復にはまだ至らない。しばらくは今の悪い状況のまま、改善はしない。

	鉄鋼業（経営者）	・一部で景気底打ちの報道が見受けられるが、建設需要、なかでも建築需要は依然低迷しており、回復する要素が見受けられない。製造業の設備投資、商業施設等の消費関連業の新規店舗計画、また大型マンション等の新規計画がほとんどない状態であり、今後も建築需要は停滞する。	
	金属製品製造業（企画担当）	・回復の兆しが一向にみられない。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・他業界からの参入もあり、競争は激化しており、この厳しさは当分続く。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・とにかく金型の動きが悪く、修正や破損品修理等だけでは毎月赤字の状態である。自動車業界が復活しないと改善は見込めない。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・電子部品関連の金型に関して、やや多めの引き合いが出てきている。まだ受注には至っていないが、大手、中堅企業共に動きは非常に活発になっており、秋口にかけて良くなっていく。	
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・ハイブリッド車の生産が増加傾向にあるが、反面、ガソリン車の生産が減少しており、総生産台数は増えていない。今後も現状維持の状態が続く。	
	輸送業	・今がどん底と考えると、景気回復も期待されるが、実際にはあまり変わらない状況で推移する。	
	輸送業（従業員）	・物が少しずつ動きだしているが、長くは続かない。良くなるとは言えないが、急に悪くもならない。	
	金融業（営業職渉外係）	・実体経済はまだ低迷しており、政局も不安定であることから、景気回復にはほど遠い状態である。	
	金融業（得意先担当）	・取引先の発注状況は依然厳しく、今後公共工事の発注が改善されない限り、今の状況がしばらく続く。	
	金融業（営業担当）	・制度資金の利用により、中小企業の資金需要は今後見受けられず、今の厳しい状況が続く。	
	広告代理店（従業員）	・新聞折込の出稿枚数は前年比80～90%と悪化した状態が続いており、今後も回復の兆しはない。各企業の最優先課題は依然経費削減であり、販促費に費やす経費が増加する気配はない。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	・一部回復の動きはあるが、本格的な回復の見通しは立っていない。	
	その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	・一部の業種で回復の兆しが見えてきてはいるが、設備投資に直結する当社取引先においては、依然として設備投資の先送り、中止が続いている。しばらくはこの状態が継続する。	
やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・地域の様子をみると、高速道路料金引下げや当地区の物産館のオープンから2～3か月が経ち、ひと時のにぎわいはなくなっている。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・消費の停滞が続いており、受注活動に大きく影響を与えている。新商品の開発も滞っており、これからますます悪くなる。	
	建設業（従業員）	・公共工事の前倒しで学校の耐震工事等、多くの工事が入札されているが、競争が激化しており、なかなか受注に結びつかない。また民間の設備投資は依然厳しく、景気回復にはほど遠いのが現状である。	
	金融業	・中小企業の倒産があり、消費などに影響がある。景気は底を打ったとは考えるが、生き残りをかけ、少ない需要を奪い合っている状況に変わりはない。企業は赤字を累積するだけであり、いずれは実体経済の悪化が表面化する可能性がある。	
悪くなる	経営コンサルタント	・各メーカーが競争についていけなくなっており、このまま厳しい状況が続く。	
	経営コンサルタント	・これからいろいろな政策の効果が発揮されれば、少しは良くなるが、それまでは変化がなく、悪い状況が続く。	
	その他サービス業	・市町村が発注する業務について、市町村の予算も低価格であるが、入札時の価格競争が激化しており、受注できない業者が発生する。受注できなかった業者が別の案件を更安く入札するようになっており、今後も価格競争が激しくなることが予想される。この受注実績で予算が決まるため、予算は低下する。	
雇用関連	良くなる	-	
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・在庫調整は終わりつつあるが、社員対応だけでは回らなくなる現場も出てくる。景気回復に向けて楽観視は出来ないが、期待は強くなっている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・自動車産業は回復の兆しがあるが、社員稼働から取り組んでおり、失業者の雇用まで回復するには時間が掛かる。

	人材派遣会社（社員）	・今の状況より急激に良くなるのではなく、少しずつではあるが雇用も増えていき、状況はあまり変わらない。
	新聞社〔求人広告〕	・景気が回復基調にあっても、求人数はすぐには増えない。企業が人員を減らしても通常業務が遂行できる状況であれば、求人数の回復にはしばらく時間が掛かる。
	職業安定所（職員）	・雇用調整の動きは一段落した感があるが、求人の状況は依然として厳しい状況にある。
	職業安定所（職員）	・管内の事業所、主に自動車部品製造事業所等において、一部受注が持ち直しているものの、秋以降については不透明であるとする事業所が多く、しばらくの間は今の状態が続く。
	学校〔大学〕（就職担当者）	・人事担当者と面談しても、これからの夏採用、秋採用に向けての求人意欲の回復傾向は全くと言っていいほど聞かれず、現状の低水準で推移していく。場合によってはさらに悪化する可能性もないわけではない。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・採用担当者との話から、今後もこのままの状況が続くと判断した。
やや悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・景気が底打ちしたとの報道はあったが、中小企業で雇用や給与の削減が続いている。夏の賞与がなかった地場百貨店等があり、冬場まで悪くなる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・選挙が実施されれば、経済活動が停滞する可能性がある。しばらく景気が上向き要素はない。
	職業安定所（職員）	・失業率が上昇し、有効求人倍率が更に悪化している。賃金も減少しており、そのため物が売れず企業の業績もなかなか回復できない。また、世界経済も不況下にあり、日本の製造業は輸出に依存しているため、日本単独での景気回復は難しい。
	職業安定所（職員）	・前年比で新規求人数の減少が続いているが、新規求職者数は増加から減少に転じた。ただ有効求人倍率は4か月連続で0.2ポイント上回る減少をしており、雇用環境が悪化した状態はしばらく続く。
悪くなる	人材派遣会社（社員）	・長崎県北部で今後ますますの雇用調整が行われる予定であり、雇用情勢は悪化する。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・これから夏の商戦に向けて短期求人が期待されるが、これまでとは状況が全く異なるので先行きが読めない。募集が顕在化しているのは、ほとんどがビルメンテナンスや求職事業など労働集約型の仕事である。
	民間職業紹介機関（社員）	・四半期決算が悪い方向になる予測が多く、求人数が伸びる要素は見当たらない。職業紹介事業の実績は前年から減少しているものの、派遣事業ほどの落ち込みはみせていない。
	民間職業紹介機関（支店長）	・一部に明るい兆し、上昇に転じる旨の報道があるが、人材需要をみる限り、底入れ感はない。夏季需要も前年比で半減しており、企業の採用姿勢は極めて消極的なままである。